

人口減少が進行する中において 総合計画を動かすための“エンジン”

- 重点プロジェクトとは、人口減少の中でも将来像の実現に向けて優先的に取り組む施策を一体的なストーリーとして束ねたものです。
- 限られた人材・資源の中で効果的に取組を展開できるとともに、町民・企業など多様な主体が関わるテーマを明確にし、共創によるまちづくりを具体的に推進します。

2 総合計画推進に向けた3つの理念

①町民を主体としたまちづくりの視点(関わりたくなる)

- 人口減少や担い手不足を背景に、行政だけでは地域課題への対応が難しくなっている。
- 町民・企業・団体がそれぞれの関心や得意分野に応じて参加できる仕組みを整え、対話や支え合いを通じた主体的なまちづくりを進める。

②先進技術を活用したまちづくりの視点(チャレンジしたくなる)

- 人口減少で人材・資源に限られる中、デジタル技術や先進的な取組を柔軟に取り入れる。
- 情報発信・移動・生活支援などの利便性・効率性を高めながら、誰もが挑戦できる機会を創出し、持続可能なまちづくりを進める。

③多様な人々が暮らしやすいまちづくりの視点(暮らし続けたいくなる)

- 人口減少の中でも子どもから高齢者まで多様な人々が安心して暮らし続け、将来「戻ってきたいくなる」と思える環境をつくる。
- そのため、医療・福祉・雇用・交通・居住環境など生活基盤の充実を図りながら、互いの違いや状況に応じて支え合える包摂的なまちづくりを進める。

3 基本目標と理念

基本目標では、3つの理念に紐づいたプロジェクトを設定します。

人口減少のまちづくり 3つの理念

基本目標 1 (総務)	先進技術と協働による安心なまち運営プロジェクト
基本目標 2 (町民生活)	安心を紡ぐ生活基盤充実プロジェクト
基本目標 3 (福祉)	“支え合い” と “協働” で育てる共生社会プロジェクト
基本目標 4 (経済)	新たな「かたち」を育む産業振興プロジェクト
基本目標 5 (建設)	にぎわう環境のある都市空間プロジェクト
基本目標 6 (教育)	人が輝き、育ち、学び続けられるまちプロジェクト

① 関わりたくなる

② チャレンジしたくなる

③ 暮らし続けたいくなる

基本目標 1 先進技術と協働による安心なまち運営プロジェクト

〈基本目標：時代の変化のなか、地域力を活かした共創による安心なまち〉

人口減少や社会環境の変化により、地域課題の解決にはデジタルなどといった先進技術、そして町民との協働が重要である。町民が安心して暮らせる環境、そしてその環境を提供するためには、先進技術の効果的な活用及び安定的な行財政運営を実現する必要がある。

■ 内容

① 町民と共に、よりよいまちづくりが行える仕組みをつくる

- ・人口減少が進む中では、町民の積極的な町政への参加が重要である。そのため、インターネットなど多様な手法による意見提出や、子どもから高齢者まで誰もが町の施策・事業を十分に理解し、意見を提出することができる仕組みなど、町民とともに進めるまちづくりを推進する。

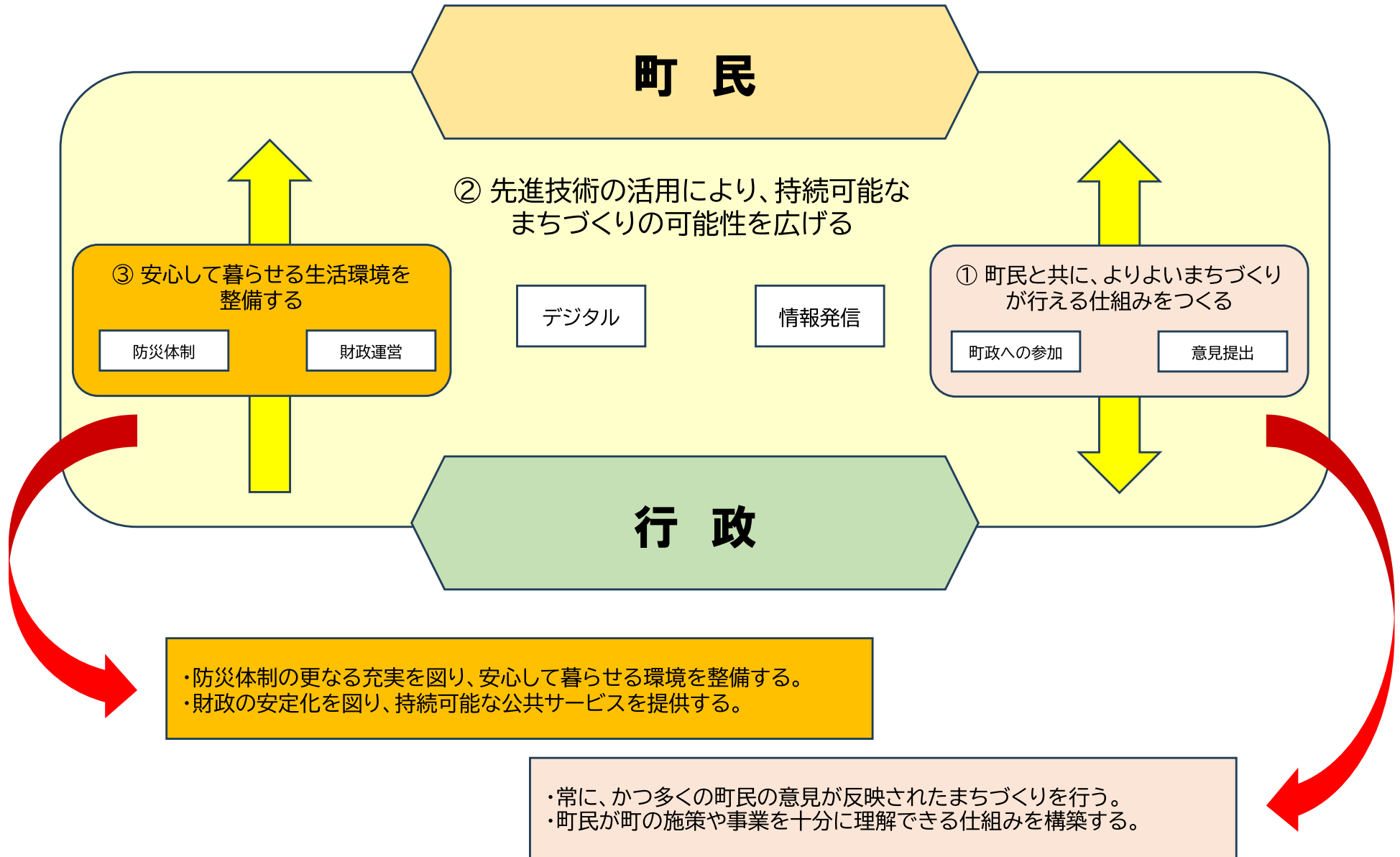
② 先進技術の活用により、持続可能なまちづくりの可能性を広げる

- ・人口減少下におけるまちづくりには、デジタルなど先進技術の活用が必要不可欠である。アプリの導入やポータルサイトによる町民への効果的な情報提供の検討、デジタルに特化したエキスパート職員の育成などにより、デジタル技術を向上させ、全ての分野において、人口減少下でも持続可能なまちづくりを推進することができる可能性を広げる。

③ 安心して暮らせる生活環境を整備する

- ・近年、全国的に増え続ける大規模災害に備え、先進技術・手法の活用により危機管理の徹底が重要である。そのため、個別避難計画による災害弱者への支援やアプリなど先進技術を活用した防災に関する情報伝達手段の向上について検討する。また、今後の物価高騰等による厳しい財政運営や新たな事業に対応するため、町内事業者との密接な連携によるふるさと納税の寄附向上を図り、財政の健全化に努める。

先進技術と協働による安心なまち運営プロジェクト



基本目標 2 安心を**紡**ぐ生活基盤充実プロジェクト

〈基本目標：日々の暮らしやすさを紡ぎ、だれもが住み続けられるまち〉

人口減少や高齢化の進行により、地域活動の担い手不足や住民の足となる移動手段の充実、住民を守る安全・安心対策の推進が課題となっている。そのため、地域住民同士のつながりを基盤としながら、公共交通網の機能維持と最適化、地域における防犯・交通安全対策の強化などの生活環境の充実を図り、住民一人ひとりが安心して暮らし続けられる環境を整える必要がある。

■ 内容

① ゆるやかなつながりにより地域共助を育む

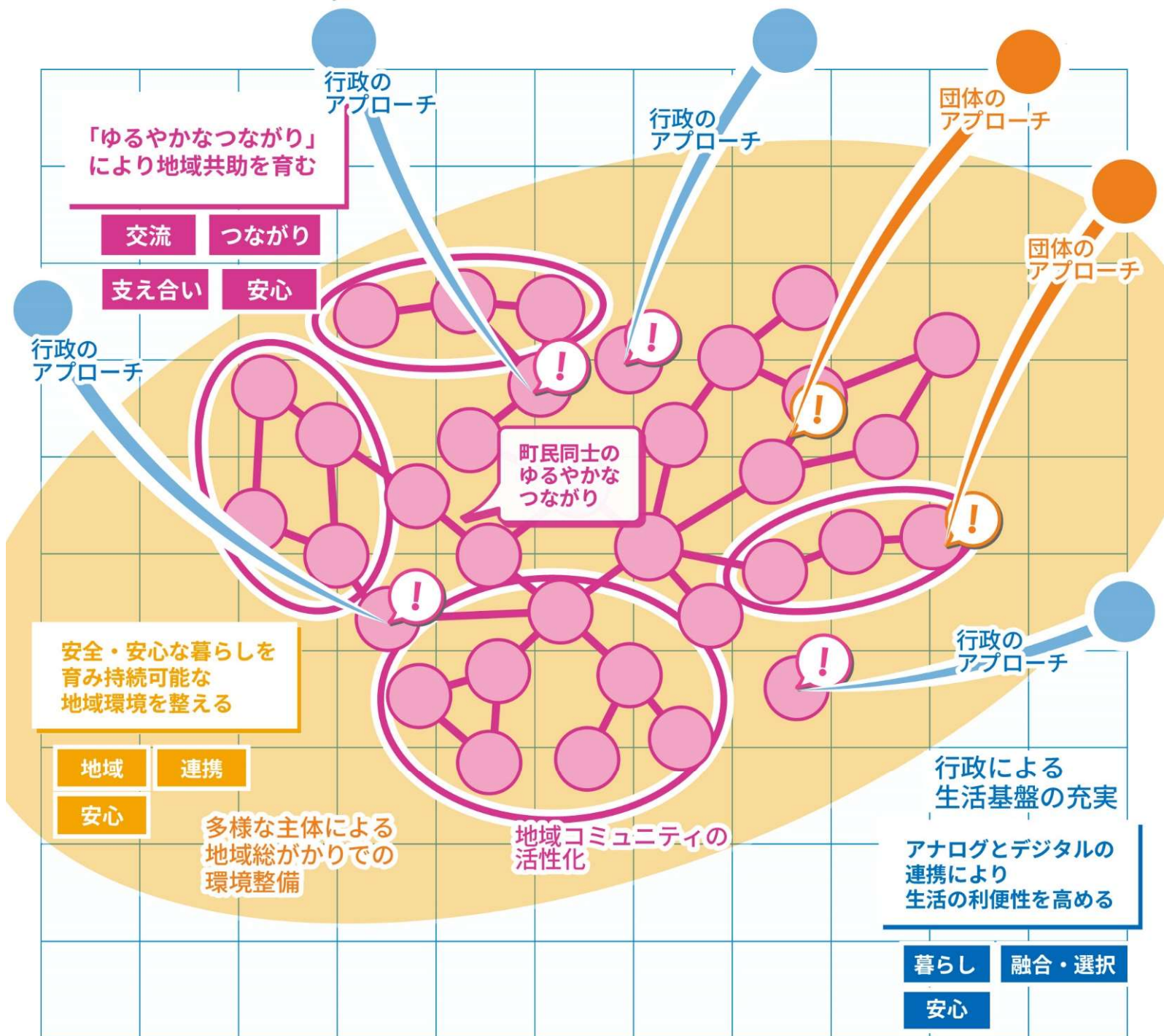
- ・ 高齢化や世帯構成の変化が進む中、住民一人ひとりのライフスタイルや関心に応じて、気軽に地域と関わり、無理なく互いを支え合う「ゆるやかなつながり」による地域コミュニティづくりを推進する。地域活動や交流の機会を通じて、住民同士が顔の見える関係を築くことで、いざという時に自然と頼り合える共助の土壌を醸成し、誰もが孤立せず、安心して暮らし続けられる支え合いの仕組みづくりを進める。

② アナログとデジタルの連携により生活の利便性を高める

- ・ 誰もが安心して移動し、日々の暮らしを送れるよう、これまでのアナログな「人と人とのつながり」や「既存の仕組み」を大切にしながら、利便性向上や効率化に資するデジタル技術を段階的かつ適切に導入のうえ、アナログの温かさとデジタルの利便性を融合させることで、住民誰もが取り残されず、それぞれのライフスタイルに合わせた選択肢を持てる、持続可能な移動・生活支援体制の構築を図る。

③ 安全・安心な暮らしを育み持続可能な地域環境を整える

- ・ 住民一人ひとりの防犯・交通安全意識の向上を促すとともに、地域住民、警察、関係団体、事業者など多様な主体が密接に連携のうえ「地域総がかり」での対策を推進して、誰もが安心して暮らせる、そして未来を担う子どもたちが健やかに育つ安全な地域環境を整える。



基本目標3 “支え合い”と“**協力**”で育てる共生社会プロジェクト

〈基本目標：日常のつながりを協働で育て、福祉につなげる あたたかなまち〉

少子化の進行、高齢化や単身世帯の増加により、「地域」でのつながりの希薄化や孤立、医療や生活への不安が課題となっている。そのため、多世代や障がい者を含めた様々な健康段階の人が関わる「つながりづくり」と「見守り」や「生活支援の仕組み」を一体的に進め、地域全体で支え合いながら、安心して暮らし続けられる環境を整える必要がある。

■ 内容

① 多世代がつながりを深め、支え合う場をつくる

- ・地域のつどいの場や交流活動、見守り活動などを通じて、多世代が日常的に関わり合いながら支え合う関係性を育むとともに、「顔が見える関係」や「笑顔で声をかけ合える」といった地域のつながりを推進・活性化する。

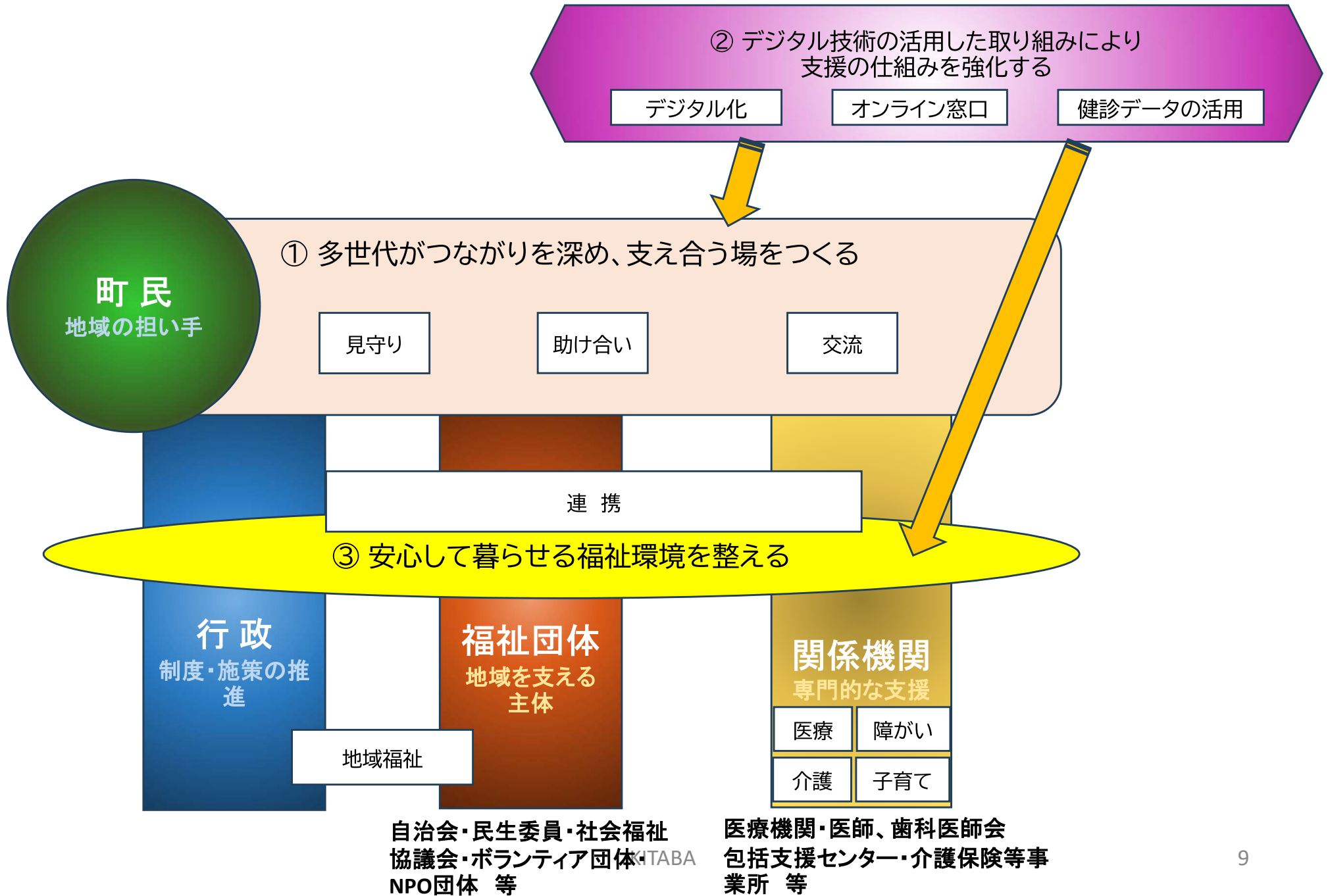
② デジタル技術を活用した取り組みにより支援の仕組みを強化する

- ・高齢化や単身世帯の増加、担い手不足への対応のほか、子育て世帯の支援を図るため、デジタル技術や地域の力を生かした見守り・生活支援の仕組みに加え、介護ケアのデジタル化やオンライン窓口の整備、健康診査データの分析・活用による健康づくりを進めながら、限られた人材の中でも地域全体で支え合う「まちぐるみ」の支援体制を構築する。

③ 安心して暮らせる福祉環境を整える

- ・子育て期から高齢期における生活の不安を踏まえ、保健・医療・介護・福祉の連携を強化するとともに、全世代を支える包括的な支援体制として、子育て世代から高齢者及び障がい者が安心して暮らし続けられる支援体制を整備する。特に、高齢期を自分らしく過ごすための健康増進を図る取り組みを実施しながら、将来にわたって安心して暮らせる環境整備を進める。

支え合いと協働で育てる共生社会プロジェクト



基本目標 4 新たな「かたち」を育む産業振興プロジェクト

〈基本目標：農・観・商が連動し、新たな「産」が生まれ続ける活力あるまち〉

産業の種別を問わず、労働力不足や後継者不足が顕著となり、人口減少の中で経済規模を維持することが困難な状況に置かれており、町民生活への影響をいかに最小限にとどめるかが最大の課題である。このような状況を踏まえ、町民、企業、団体、公的機関が効果的かつ効率的に役割を分担し、移住定住の促進や関係人口の創出、各産業の「掛け合わせ」によって新たな「かたち」を生み出し、持続可能な産業基盤を構築する。

■ 内容

① 持続可能な産業の構築

- ・本町の経済基盤を維持することが最重要である。そのためには、労働力確保や業務の効率化、後継者不足への対応、新規市場や販路の開拓が不可欠である。また、交通の要衝としての立地特性を活かし、基幹産業である農林業をはじめとする産業と物流ポテンシャルを掛け合わせることで、産業の基盤強化を図る。

② 新たな挑戦を育む

- ・各産業において、先進技術や新たな取り組み、アイデアを積極的に導入し、生産性の向上および技術革新を推進する。また、本町の観光業は現在転換期を迎えており、農業・林業・飲食業など様々な産業との連携による相乗効果が期待されることから、これらの分野と連携した新たな展開を戦略的に進める。

③ 観光を起点とした関係人口・移住定住の促進

- ・本町最大の観光資源である美幌峠を起点に、屈斜路カルデラトレイル、美幌みどりの村・峠の湯等の既存施設、基幹産業である農林業と連携することで、より深く本町に関わる関係人口を創出する。「訪れる人」が「関わる人」となり、やがて「住む人」へとつながる一連の流れを意識した一体的な取組を推進する。

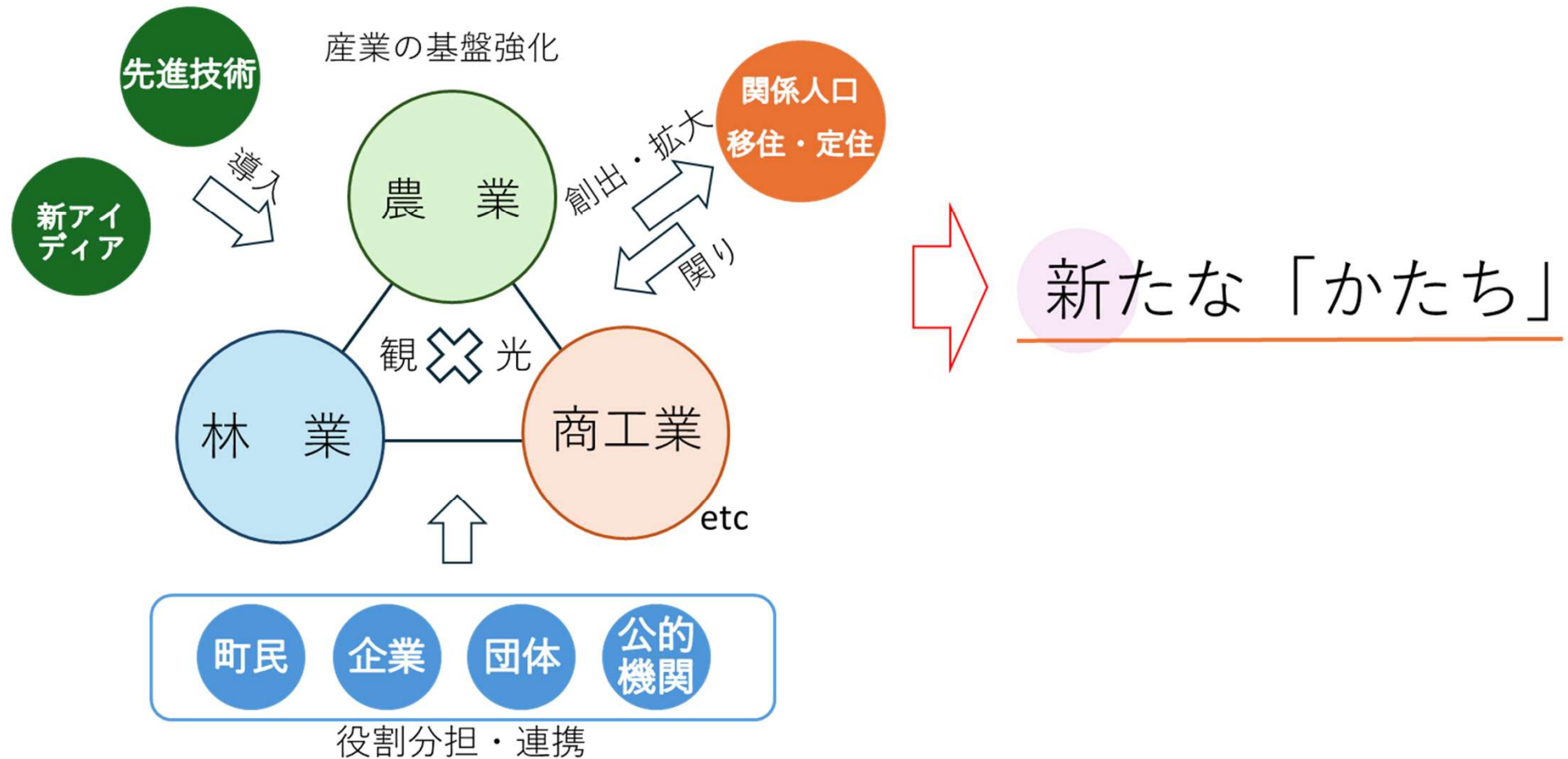
基本目標4 新たな「かたち」を育む産業振興プロジェクト

<課題> 人口減少 ⇒ 労働力不足・後継者不足 ⇒ 産業の衰退の危機



<課題解決に向けて>

- ①持続可能な産業の構築
- ②新たな挑戦を育む
- ③観光を起点とした関係人口・移住定住の推進



基本目標5 にぎわう環境のある都市空間プロジェクト

〈基本目標：暮らしと環境が支え合う コンパクトで持続可能なまち〉

人口減少により、市街地の低密度化や空洞化が進み、まちなかのにぎわいや都市機能の維持が課題となっている。そのため、にぎわいの創出と都市機能の集約を進め、持続可能な都市構造への転換と、歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりを図る必要がある。

■ 内容

① 町民が関わるにぎわいの場をつくる

- ・ 中心市街地の空洞化やにぎわいの低下を踏まえ、まちなかや公共空間を活用し、町民や事業者に加え町外からの来訪者も含め、世代を超えて主体的に関わるイベントや日常的な活動を通じて、人が集い交流が生まれる場づくりを進める。

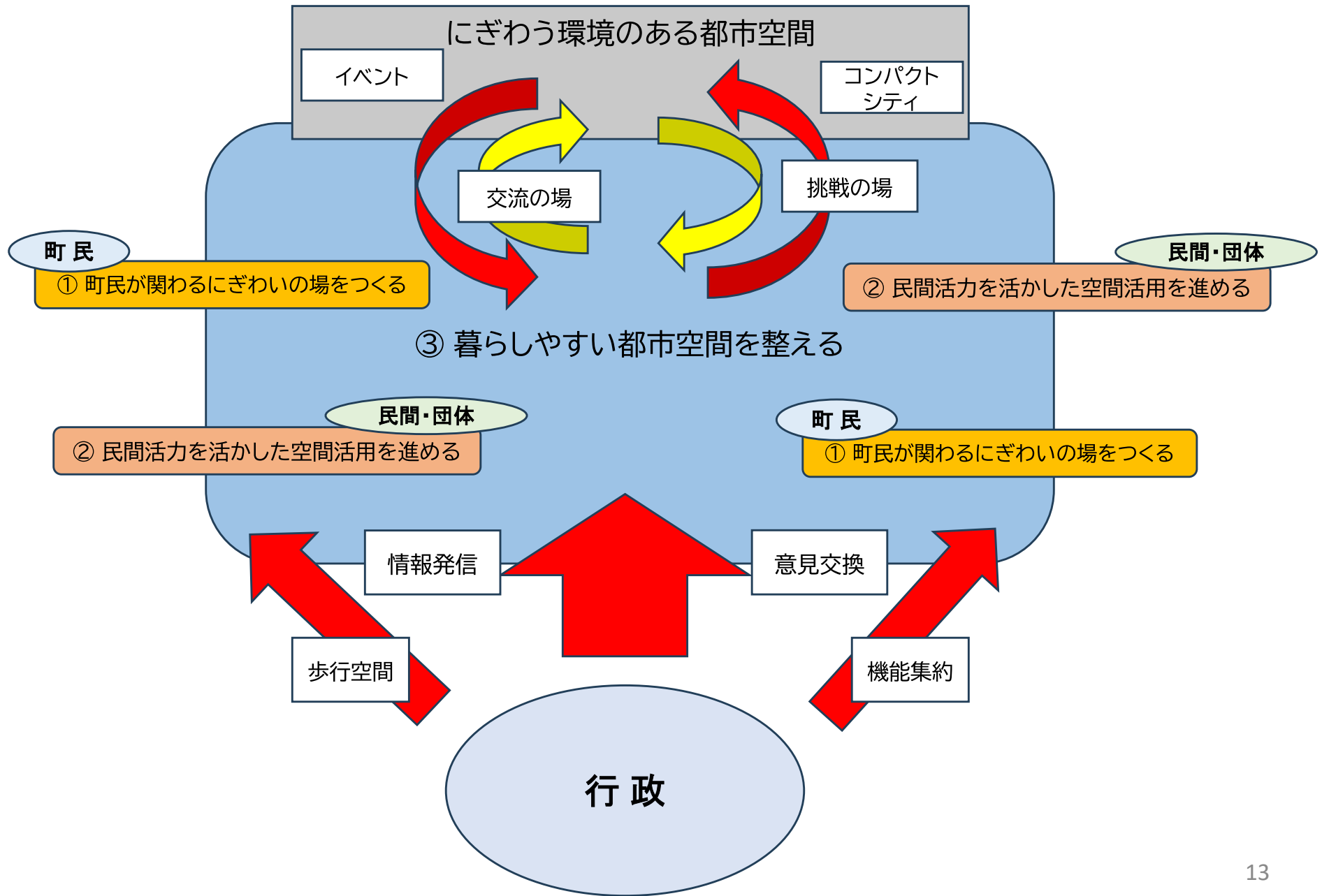
② 民間活力を活かした空間活用を進める

- ・ 空き家、空き店舗など未利用地の増加に対応し、リノベーション、起業、飲食及び地域活動などの新たな挑戦の場及び新たな空間活用手法を取り入れるとともに、官民連携やエリアマネジメントの視点を取り入れながら、持続的に活用される仕組みを構築し、民間活力も活かして都市機能の集約を図る。

③ 暮らしやすい都市空間を整える

- ・ 人口の変化に合わせたコンパクトなまちづくりを進め、生活に必要な機能の集約や歩行空間の充実を図り、災害リスクが低く誰もが安心して利用できる都市空間を整備する。

にぎわう環境のある都市空間プロジェクト



基本目標6 人が輝き、育ち、学び続けられるまちプロジェクト

〈基本目標：多様な学びで個性が輝き、未来に羽ばたく力を育むまち〉

乳幼児期から成人期、高齢期まで、人生100年時代を心豊かに生きるため、学びの機会の充実を図ることが課題となっている。そのため、質の高い教育施策を切れ目なく展開し、郷土への愛着と誇りを持つ人材を育成するとともに、生涯を通じて学び続けられる環境を整え、すべての人が輝けるまちを創造する。

■ 内容

① ふるさと美幌を愛し、夢を持って学ぶ機会をつくる

・地域の自然や歴史、産業、観光など「生きた教材」を活かした体験型の学びを充実させることで「ふるさと教育」を推進するとともに、自らも将来の「生きた教材」のような地域のサポーターとして活躍したいという夢を持ち、このまちと関わり続けたいと思える仕組みを整備する。

② 社会を生き抜くため・多様性を尊重した学びの機会を創出する

・子どもたちの良質な教育環境を整えるために義務教育学校を整備し、小中一貫教育を導入することで、未来に向かって創造的に考え、主体的に学び行動する子どもを育てる。また、いつでも、どこでも、誰もが学べる環境づくりを整備し、一人ひとりの個のスタイルに応じた学びの機会を創出する。

③ 生涯を通じて学び続けられる環境をつくる

・生涯学習の機会を深化させるとともに、子どもからお年寄りまで、誰もが楽しく元気に学び、活動できる機会を設け、「この町で学び続けたい」という意欲を高めるための環境を整える。

人が輝き、育ち、学び続けられるまちプロジェクト

愛着・誇り



夢を持つ



学び続ける

輝

③生涯を通じて学び続けられる環境をつくる

②社会を生き抜くため・多様性を尊重した学びの機会を創出する

良質な教育環境
の提供

主体的な行動を
育成

誰もが学べる
環境整備

義務教育学校

100年時代を心豊かに

①ふるさと美幌を愛し、夢を持って学ぶ機会をつくる

ふるさと教育

地域人材
の活用

くらし続けたい
心の醸成

学んだ人が、
教える人に